

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋 賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878

平成二十五年七月十六日
 午後四時開始。
 子どもは遊びの天才であると言われている。しかし、緑地や空き地のない街、交通戦争、塾やけいご塾に追われる忙しい毎日など、子どもたちをとりまき環境は彼らからどんどん遊びを奪いつつある。
 横浜での調査では、十年前は70%の子どもが、あそび時間がないといっていたのだが、1989年の調査では、少ないと答えた子どもは35%に減り、50%の子どもは「まあ、良い」と答えている。日本の子どもたちがあそびの欲求そのものを失ってしまっていることを表している。

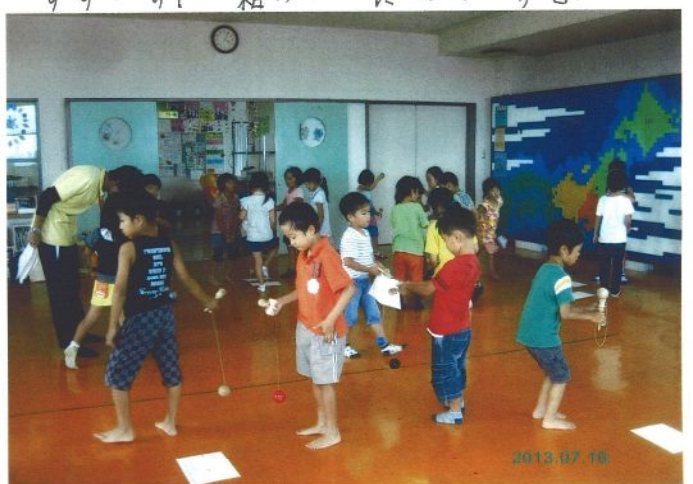
本地原児童館 22名けん玉発祥の場所(尾張旭市)



遊ぶと教育
 遊ぶには教育がある。遊びながら覚えることと習得体得することと鍛えられることが限りなくある。
 教育には知育、徳育、体育の三領域がある。そのすべてが遊びの中にある。
 脳生理学の観点からいみると、脳の発達と手の指の動きには密接な相関関係がある。
 脳が発達することによって手の指を微妙に動かすことができるようになる。その指を微妙に動かすことこそが脳も発達することになる。



いえるように思える。
 あそびの時間、あそびの空間、あそびの集団、そしてあそびの方法、これら四つを環境の四つの要素は、この二三十年の間に急激に変化し、相互に影響を及ぼしている。その結果、日本の子どもたちは外あそびの熱意を失っている。
 手の指を使う場所は日常生活の中に無限にある。
 紐を結び、木タをほめる、鉛筆を削る、鉛筆で字を書く、紙を切るなど、すべてにおいて、日本人は食事に箸を使う。箸は手指の高度な働きを要し、しかも毎日三度の食事の場



▲ だてを伸ばして、はたき、足で踏む、先んず、幼い子供、発達、健全、で、健康な



場がある。
 手の指の訓練の恰好の場所である。子供の遊びにも指を使う場所をわけてやる。
 それらの作業が脳の発達に好影響を及ぼしている。これは、これからの子ども達に再び習得を要するに大きな期待をもつものである。
 必、出来ること。子に約束する。粘り、粘り、粘りにする子もいる。顔を赤らめ、涙の中、悔し涙

